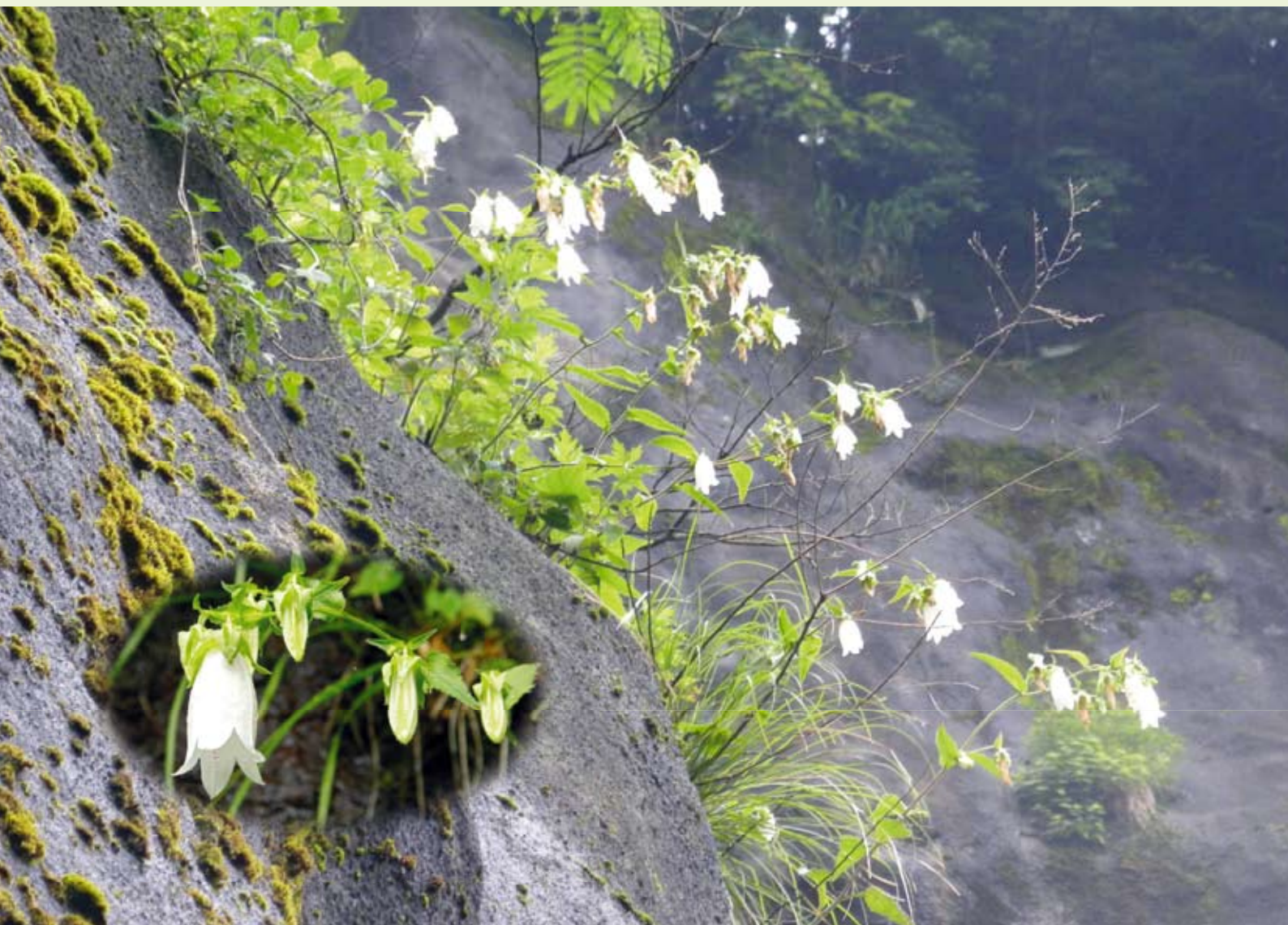


花と緑の銀行だより

176号 2010.7



ヤマホテルブクロ／富山市

目次	・花と緑の提言……………	2	・技術講座……………	6
	・銀行、市町村の事業紹介……………	3	・この人あり……………	7
	・活動事例……………	4	・お知らせ……………	7
	・花壇用草花の新品種と栽培法……………	5		



花と緑のまちづくり

射水市長 花と緑の銀行射水支店長 **夏野元志**

梅雨の間、私たちの目を楽しませてくれた紫陽花の季節が過ぎ、朝顔や向日葵といった夏の花が色鮮やかに咲き誇る季節を迎えています。

日ごろ、花と緑の銀行頭取並びにグリーンキーパーの皆様におかれましては、花と緑に彩られた美しい地域づくりに多大なお力添えをいただいておりますことに、深く敬意と感謝を申し上げます。

去る5月28日、森林保全の重要性を啓発する「第11回とやま森の祭典」を、本市において開催いたしました。関係各位のあたたかいご協力により、成功裡に祭典を終えることができました。ご協力いただきました皆様に対し、この場をお借りして深く感謝を申し上げます。

さて、皆様のご協力をいただきながら進めております花と緑のまちづくりは、今や「住み良い環境づくり」という範疇を超えて、まちの活性化、あるいはまちのイメージ戦略という面においても、大変大きな可能性を秘めています。

射水市におきましても、市南部に広がる県内最大の都市公園「太閤山ランド」には、春の桜、初夏の紫陽花、秋の紅葉など四季折々の花を目標に年間65万人を超える方々が来場されます。また夏には、射水市大島絵本館に隣接する向日葵畑で約3万株の向日葵が一面に咲き誇り、多くの親子連れで賑わうなど、花や緑は、射水市における観光産業の活性化にも大きな役割を果たしています。



白石公園花壇

花と緑の銀行射水支店といたしましては、引き続き「市民総参加で花と緑のまちづくりを目指す」という基本理念に基づき、射水市が花と緑に彩られた美しいまちとなるよう、緑花木・花苗等の配布、花壇コンクールの開催、さらには射水市の花、木、花木である「カワラナデシコ」、「とねりこ」、「あじさい」の普及など様々な活動を展開し、射水市そして富山県の活性化の一翼を担ってまいりたいと考えております。



本郷公民館花壇の植え付け

終わりに、財団法人花と緑の銀行の今後ますますのご発展と、関係の皆様の一層のご活躍を心からご祈念申し上げます。

入善町(入善支店)の事業、活動紹介

入善町建設下水道課

課長 草島隆良

富山県東部に位置する入善町は、北アルプスから流れ出る急流、黒部川によって形成された、黒部川扇状地の中心に位置する、人口約27,000人の町です。

黒部川は、かつて黒部四十八ヶ瀬と云われた暴れ川で、たびたび氾濫を繰り返し、人々を苦しめた反面、この水を利用した流水客土と、圃場整備の実施により、現在では、県内有数の穀倉地帯となっております。また、全国名水百選に指定された黒部川湧水群を有しており、量も豊富で清らかな水が、町のいたるところで取水される、名水の町であります。この名水が農業やその他の産業の源となり、農工一体の田園都市を形成しております。

このような環境にある入善町は、緑にあふれる地域となっており、永年にわたり水田裏作として栽培され全国的な生産量を誇っている【チューリップ】を町花とし、また、かつて、黒部川扇状地に広く分布し、現在も下山河岸段丘に群生している【こぶし】を町木に指定しております。

平成22年3月には、中心市街地の緑のうらおい空間として、花月公園を再整備しました。花月公園には、もともと植栽されていたコブシ、モクレン、ソメイヨシノ等に加え、ヤマザクラ、イロハモミジ、ヤマボウシ、その他緑化木が植栽され、また、新たに整備された花壇には、サ



花月公園花壇への植栽

ルビア、ペゴニア、日々草等がグリーンキーパーを始め、地域住民の手により、色鮮やかに植栽されました。

入善支店における花とみどりのまちづくり政策として、春には、公園、公民館、学校等、約90ヶ所に苗を配布しております。また、花苗の配布にあわせて、各地方銀行では、花壇づくり教室や、木の剪定講習会等、寄せ植え教室等地域独自の活動を展開しており、緑化推進施策を地域ぐるみで取り組んでおります。

活動事例としては、平成22年4月に横山地方銀行による花いっぱい活動として、地区住民が育てたスイセン約400本と、入善支店からシバザクラ320株をグリーンキーパーが中心となり、地域住民約40名で小学校の通学路沿いの花壇に花を植え、登下校児童に、花の彩りを楽しんでもらっております。



横山地内 花壇への植栽

昨年、入善町では、富山県の花の名所となる「オープンガーデン」に、新たに2ヶ所（【入善駅前花壇】・【青木つこなかよし花壇】）の花壇を登録し、合わせて6ヶ所となりました。今後も、町内の花壇の育成に努め、花と緑がいつぱいの町づくりを進めて参ります。

学校のシンボルとして

黒部市立宇奈月小学校

校長 水野 恵子

地域の伝統文化を花壇に

「近郷近在 若い衆たちもお光お光と騒ぎはすれど…」愛本^{ちまき}粽口説きにある愛本の大蛇伝説。

黒部川の橋のたもとの茶屋に住む美しい娘お光は若侍に嫁いだが、若侍は黒部川に棲む大蛇でした。大蛇に姿を変えたお光を見てしまった老夫婦に粽の作り方を教え、お光は黒部の川へと帰っていきました。その話を六つの花壇に花物語にした昨年の本校の花壇は、県の花壇コンクールで学校花壇最優秀賞を受賞しました。開校して4年目の本校にとって、この知らせは驚きでもあり、大きな喜びでした。



「愛本姫社まつり」は毎年6月21日に行われ、子どもたちが踊ったり大蛇行列に参加したりする地域のお祭りです。

昨年花壇のデザインを募集したとき、地域の民話を花壇にという意見が出て、この大蛇伝説を花物語にすることが決まり、物語を六つの場面にわけ、そのイメージにあった花を植えました。どの花壇にも黒部の山々をあらわす形にあさがおを配置し、黒部川の流木をお光や若侍にみたと、花とのコラボレーションを楽しみまし



た。グリーンエコ委員会が中心となって水やりや草むしりなどの花の世話をしました。ほかにも登下校のアプローチに宿根草を中心にした花壇を作っています。また、昨年からはグラウンドの横に地域の方のアイディアを活かした60mの宇奈月の自然をイメージした花壇も作られました。今年もきつとすてきな花が咲くことでしょう。

子どもたちの今年の花壇は11月にアイディアを募り、新たに六つの花壇の花絵巻を創りあげようとしています。

子どもたちが花の世を通して、心優しく、自然を愛し、ふるさとに誇りをもつ人に育ってくれるように願っています。

宇奈月の景色にとけこむビオトープ

四つの学校が統合されて新しい宇奈月小学校が造られたとき子どもたちの自由な空間として、ビオトープが造られました。ビオトープは5年生が総合的な学習で「命のつながり」を学ぶ空間として、また、子どもたちが休憩時に遊ぶ場所として、いつも子どもたちのそばにあります。昨年からは、ビオトープ研究会の皆さんにゲストティーチャーとして来ていただき、ビオトープの生物や植物について教えていただいています。ミクリやミツガシワなどの植物やマツモムシやイトトンボ、ヒメゲンゴロウなどの生き物に子どもたちは興味津々です。子どもの願いを活かしながら作るビオトープは南天やクヌギ、睡蓮や水芭蕉などを植えながら、楽しく姿を変えていきます。ベンチに座り、山々を眺め、ビオトープを見ていると、心にさわやかな風が吹いてきます。最高の景色を楽しめるひとときです。

建設から5年目を迎えた宇奈月小学校の花壇やビオトープが、学校のシンボルとして子どもたちにそして地域の皆さんに愛される場所になっていくのが楽しみです。

猛暑に強い新しい花壇用草花の栽培法

(有)島種苗店 島 道雄

近年猛暑続きの夏が当たり前になり、夏花壇の品種選定に苦労されていることと思います。今回は猛暑にも強い品種を2種類、そして環境浄化植物を紹介します。

①アンゲロニア属

《エンジェルラベンダー (ハルディン)》

“夏花壇の救世主”と言われるほど高温多湿の日本の夏にピッタリの植物で、丈夫で育てやすい品種です。初夏から晩秋まで咲き続け、花がら摘みなども必要なく花壇やコンテナに最適です。咲き終わった花茎を株元より20cmくらいのところで切り戻すと、また咲きだします。ただし8月中旬以降は切り戻しをしないようにします。花期が長いので緩効性の肥料を入れて植え付けましょう。本来1年草として扱いますが、冬越しさせるには日当たりのよい室内で10℃以上で管理しましょう。



エンジェルラベンダー

②コリウス属

《栄養系コリウス (ハルディン)》

コリウスには栄養系コリウスと実生系コリウスの2種類に分けることができます。栄養系は実生系に比べて葉の色や形も種類が豊富ということと、花が付きにくい品種が多く、つまり長持ちするということです。

大きさは小さなプチタイプから人の背丈ほどになるものまでありますので、花壇からコンテナそしてハンキングにと、利用法も幅広く使えます。品種によっては真夏の強光線下に置かれた場合、葉色に変化したり葉焼けを起す場合もあります。植え付けるポイントは根鉢をくずさず植え付けることをおすすめします。



③ツリフネソウ属

《サンパチェンス (サカタのタネ)》

夏の暑さにも負けず大きく育ち、鮮やかな花を長期間咲かせるサンパチェンス。もうひとつの魅力は二酸化炭素の吸収能力が従来の花き園芸植物に比べて高いということで、環境浄化植物と言えます。日向または半日陰の屋外で管理して下さい。日当たりの良い場所で育てた方が花付きがよくなります。

肥料は緩効性のものを植え付けの時にやり、液体肥料の1000倍に薄めたものを2週間に1度くらいやると良く生育します。

枝が伸びて株のバランスが悪くなったら枝先から1/3くらいのところで切り戻して下さい。



富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン⑤

職芸学院

教授 渡邊美保子

ヒオウギは日本の山野に自生し、真夏に花を咲かせるおすすめの宿根草です。名前の由来は、平べったい刀のような葉が交互に重なり扇のように広がることから名づけられました。十二単の着物の襟元のように重なる葉の間から、長い茎を一本だけ天に伸ばしたその先に橙色の花をつける姿は、平安時代の女性貴族のような気高さを感じさせます。



No1.ヒオウギ：
草丈は1m程度。職芸学院宿根草実験ガーデン8月中旬。

ヒオウギの花は朝開いて夕方にはしぼんでしまう一日花ですが、一本の茎の先にたくさんのつぼみをつけ順番待ちをしていますので、長い間楽しむことができます。橙色の花びらの中に赤い斑点がある花は、あまり日本的な印象ではありませんが、らせん状にくるくるねじれて閉じていくはかない姿を見ていますと、短い命に気づいてくださいと言わんばかりの色なのかもしれせん。



No2.ダルマヒオウギ：
ヒオウギの園芸品種。草丈40cm位。

ヒオウギは日当たりを好みますが、土が乾燥する場所は嫌います。水はけが良く保水性のある土であれば、ほとんど肥料は入りません。このことから組み合わせをする際は、ヒオウギを囲むように、地際から葉が叢生するようなヘメロカリス（ニッコウキスゲの仲間）やムラサキツユクサなどの宿根草と混ぜて植えると良いでしょう。葉を平面的にしか広げることのできないヒオウギは、まわりの宿根草の葉のおかげで乾燥から身を守ることができます。

一つの花が咲き終わるごとに、しぼんだ花をくっつけたまま緑色の種袋が膨らんでいきます。秋になると袋が割れて、その中から黒光りする葡萄のような種が現れます。ヒオウギの種は、



No3.ダルマヒオウギ：
10月下旬。つやのある黒い種から、和歌に読まれる夜や黒の枕詞、「ヌバタマ」は、ヒオウギの別名。

風に吹かれて落ちた所が気に入りますと芽を出します。種を取り翌年まいても芽は出ません。何もしなくても地面のあちらこちらから、パツと開いた小さな扇の集団が踊るように現れます。この苗を移植するのが一番簡単な増やし方です。ただし、忘れた頃にとんでもない所から芽を出しますので、あせらず気長に待ちましょう。



花を通して地域のふれあい

花と緑の銀行小矢部支店

石動地方銀行頭取 **坪野 睦**

「頭取？私が小矢部市石動支店の頭取？」ある日突然、市役所の小矢部支店の担当者から電話を頂き本当にびっくりしました。

私は、小矢部市石動町の駅前商店街に住んでいます。商店街の美化活動担当と言うことで、グリーンキーパーになりました。花に関しては、まるっきり知識のないままに、はじめは、多少戸惑いもありましたが、商店街のおかみさんたちと一緒に、楽しくおしゃべりをしながら、いろいろ教えていただきプランターやコンテナに花を植えております。

「今年はどうな花を植える？」

「去年は日々草きれいだったね。」

「秋になっても元気に咲いてたしね。」

「今年は宿根草を植えてみませんか？オキシペタルム（別名ブルースター）っていう花はどうですか？」

「どんな花が咲くか楽しみだね。」

「プランターはもうちょっと増やしたほうがいいんじゃない？」

「駅前小矢部市の玄関口だからやっぱりきれいにしておかないとね。」

などとワイワイガヤガヤと去年の反省をしながら今年の準備に入ります。

普段あまり話すことのない商店街の方々と花を植えることによって会話をすることができます。そして花を植えていると近所のおばさんやおじさんたちも「きれいやねえ。」「水やり大変やねえ。」「あたしも手伝おうか？」と声を掛けてくださいます。朝の通学時に水やりをしていると、登校する子供たちが「おはよう。」「おはようございます。」と元気にあいさつをしてくれます。

このようにして花を植えて育てることで、地域の方々とのお話が生まれ、一緒に世話をすることで、花を愛する気持ちを共有することができて、お互い優しい気持ちを育むことができるようになりました。

はじめは商店街の活動としての花壇づくりでしたが、これからは地域に住んでいらっしゃる皆さんを巻き込みながら連携をとり花づくりを進めていきたいと思えます。

そして、小矢部市の玄関口である石動町全体が花と緑にかこまれた潤いと安らぎに満ち溢れている町にしていきたいです。

〈お知らせ〉

夏休みはキッズ広場に集合!

夏休み期間に県民公園頼成の森で自然体験広場や自然観察相談を行います。

1. 自然体験の広場

植物や昆虫と触れ合いながら、緑豊かな頼成の森の自然を体験して頂きます。

期日：7月21日～8月30日の土曜日、日曜日

時間：9：00～16：00

2. 自然観察等の相談広場

自分たちで自然観察や実験を行うための相談、アドバイスをを行います。

期日：7月21日～8月30日

時間：9：00～16：00

3. 木工手作り教室

講師の指導を受けながら、自由に木工作品を作り、木と触れ合い、木の良さを体感し手作りのおもしろさを楽しむ。

期日：7月31日（土）、8月1日（日）

時間：9：30～15：00



表紙写真：ヤマホタルブクロ、キキョウ科（富山市）

裏表紙写真：ハマヒルガオ、ヒルガオ科 [後方はコウボウムギ]（富山市）



ハマヒルガオ／富山市



花と緑の銀行だより 176号

発行日 平成22年7月

編集発行 財団法人 **花と緑の銀行**

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-2425

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/fgbank/>

富山県中央植物園

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-4187

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org>

県民公園頼成の森

〒939-1431 富山県砺波市頼成156

TEL 0763-37-1540

FAX 0763-37-1450

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/ranjyounomori/>

再生紙を使用しています。